

天文学とプラネタリウム

第141回



今月のお題

星空の哲学

宇宙図@オンラインの連続講座を開催します!



六本木天文クラブの第2期星空案内人®養成講座が無事終了しました。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

去る12月14日、10月から実施していた六本木天文クラブ主催の星空案内人養成講座の第2期プログラムの修了式が行われました。今期の講座では、28名の受講生を準星空案内人(準ソムリエ)として認定することができました。これで第1期と合わせれば、全部で90名の準星空案内人を六本木天文クラブから送り出したこととなります。

星空案内人講座は、発祥の地である山形をはじめ、全国各地で実施されていますが、私たちが運営する六本木天文クラブがユニークなのはその参加者層です。そのほとんどが、現役で働いている世代の方なのです。しかも、女性が多い。およそ7割が女性です。天文ファンと言えば中年以上の男性というイメージが強いように思われますが(……ですよね?)、ここではまったく違ったセクターの人々が参加していることが特徴となっています。

修了式では毎回、修了生のひとりひとりに今後の抱負を述べてもらうようにしているのですが、それを聞いていると、星空案内人を目指す背景にはさまざまなモチベーションがあることがわか

ります。前から星空に憧れていたので一発発起して勉強してきたという方、お友達と一緒に旅行に行った時に星空をみんなで楽しみたいから来たという方、自分が面倒を見ている子どもたちに星空の話をしてあげたいから来たという方など、理由は人によって千差万別。しかし、この多様性こそが、宇宙が人々の生活の中に自然とあるような、豊かな文化を育もうとする時に大事な種になると思うのです。

そのように考えれば、星空案内人養成講座とは大事な種を発芽させ、露地栽培に持っていきまでの苗床のようなもの。となると、次は適切な場所に苗が根付き、必要に応じて水や肥料を得て、悪い病気に罹ったり、枯れてしまったりしないよう、周りからもよく見守られているような環境があることが、望ましいことと言えるでしょう。そのような環境にあって着実に成長し、やがては立派な樹となって、そこを根城とする新たな生態系がまた育っていく、というのがイメージとしては美しいように思います。

なにもあって立派な樹と呼ぶのかはなかなか難しいところではありますが、私が思うに、それは自分なりの星空の哲学を持つことです。なぜ



修了式における、修了証授与のひとこま。

自分は星空を人に見せるのか、その自分なりの理由を持っている事は、とても大事なことです。それは、自分ひとりで孤独に追究できなくもないと思いますが、むしろ、いろいろな人とふれ合い、対話を重ねていく中で見つけていくものだと思います。六本木天文クラブだけでなく、全国各地で行われている星空案内人養成講座の中からどんな哲学が生まれ、新しい文化へと育っていくのか、楽しみです。